

戦争法案 説明デタラメ 答弁破綻

集団的自衛権

「必要性」の根拠は総崩れ

●邦人輸送の米艦防護

安倍首相は集団的自衛権行使の「閣議決定」記者会見で、海外の紛争地から逃れる日本人母子のイラストを掲げ、「日本人を輸送する米艦船を守らなくていいのか」と言いました。

ところが中谷防衛相は日本人が乗っていないにもかかわらず集団的自衛権の行使

●ホルムズ海峡の機雷掃海

集団的自衛権行使の「具体例」として首相が何度も取り上げたホルムズ海峡の機雷掃海。しかし当のイ



はありうると答弁。行使の「代表例」として行った首相の説明はウソだったこととなります。

ラン政府が海峡封鎖などありえないと否定しています。政府はこの例を持ち出せなくなっています。

「歯止め」なく毒ガス、核兵器輸送も

米軍への補給・輸送などの「後方支援」=兵たんは「歯止め」があり

武器・弾薬の輸送、提供を大幅に拡大

	提供 武器 弾薬		輸送 武器 弾薬		戦闘発進中の 米軍機への給油
周辺事態法	×	×	○	○	×
テロ特措法	×	×	×	×	×
イラク特措法	×	×	×	×	×
戦争法案	×	○	○	○	○

ません。これまで「非戦闘地域」に限られていたのが、「戦闘地域」とされてきた場所まで行って米軍支援が可能に。

クラスター弾、劣化ウラン弾、毒ガス兵器、核兵器などの非人道兵器・大量破壊兵器も、法文上は運べることが明らかになりました。

法案ボロボロ 廃案しかなない

2つの内部文書

国民・国会無視で「軍」暴走

この間、共産党が入手・追及してきた自衛隊の2つの内部文書は重大です。

●戦争法案先取り

一つは、自衛隊幹部350人を衆院審議が始まったその日に集め、戦争法案成立を前提に法案具体化のための説明に使った文書。米軍と自衛隊の「軍軍間

●アメリカ追隨

もう一つは、自衛隊トップの統幕長が昨年12月に訪米した際の米軍中枢との会議録。「安保法制は予定通り進んでいるか」と問われ、統幕



グアムでの日米合同強襲上陸作戦（米海兵隊ウエブサイトから）

の調整所]=米軍・自衛隊の共同軍事司令部を平時からつくるなど、国会に一度も説明したことがないことがズラリと並んでいます。

長は「来年夏までには終了」と表明しました。法案の閣議決定（5月）のはるか前。国会・国民無視でこんな約束をするとは言語道断です。

軍事対応でいいの？ 日本共産党

中国 外相「脅威とみなさない」

岸田外相は共産党の大門みきし参院議員の質問に「わが国政府は中国を脅威とみなしてはいない」「日中両国が安定的な友好関係を発展させることは

大変重要」と答弁しました（8月5日、参院安保特別委）。安倍政権でさえ中国を「脅威」とする根拠は示せません。

北朝鮮 有事起きる状況にない

1994年、北朝鮮の核開発計画めぐり一触即発の事態が起きたとき、韓国の金泳三大統領（当時）は米軍が攻撃しても韓国軍の一人も動員しない

と伝え、戦争は回避されました。戦争になれば朝鮮半島全体が甚大な被害を受けます。リアルに見れば「朝鮮有事」がいま起きる状況にはありません。